

## 株式会社ヒラノテクシード (6245 JP)

FY26 の幕開けと共に任命された新 CEO のリードのもと、成長戦略の転換を目指す。

### エグゼクティブサマリー

#### ➤ FY25 通期決算

ヒラノテクシードが発表した FY25 通期決算は、売上高 32,285 百万円（前期比 33.2%減）、営業利益 1,599 百万円（同 4.9%減）となり、営業利益率は前年同期の 3.5%から改善し 5.0%となった。売上高の減少はおもに塗工機関連機器セグメントにおいて、顧客の設備投資の様子見により装置の受注が減少し、それにより付帯工事の需要も減少に転じたためである。また、EV 市場の減速が継続し、顧客がリチウムイオン二次電池関連への投資に慎重なため、EV 関連の機械装置の受注が減少し塗工機関連機器セグメントの売上を圧迫した。第 3 四半期には、複数の案件において総額 7,229 百万円のキャンセルが発生し、受注残高が減少した。

#### ➤ FY26 業績予想

同社は FY26 を新たな CEO のもとでスタートした。同社は FY26 の業績予想を、上期売上高 13,000 百万円（前年同期比 28.4%減）、同営業利益 800 百万円（同 33.8%減）、通期売上高 25,000 百万円（前期比 22.6%減）、同営業利益 1,500 百万円（同 6.2%減）としている。EV 市場の世界的な先行き不透明感は同社の当初の想定より長引く可能性があり、顧客の設備投資意欲の減退につながるため、同社は受注残の消化ペースは今後鈍化し塗工機関連機器セグメントの業績は弱含むと見ている。案件のキャンセルの影響は未確定であるが、EV 用リチウム電池関連の設備投資の縮小も予想されるため、今後 EV 以外の分野および中国などの米国以外の地域で新規受注を獲得することが同社にとって急務である。

#### ➤ 増大する経営環境の不透明感

2023 年 5 月の「長期ビジョン 2030」、および 2024 年 5 月の中期経営計画（FY24-FY27）発表時と比べ事業環境が大きく変化したことを踏まえ、同社は中期経営計画の成長戦略の見直しを行った。今後は、EV 需要に基づくリチウムイオン二次電池塗工装置を中心とした生産能力向上重視の戦略から、各先端分野の薄膜新素材の開発に重点をおいたあらゆるニーズに対応できる同社本来の強みを生かした戦略へと転換を図る。株主還元の配当金に関しては、DOE3.5%または配当性向 60%のいずれか高い金額を目安に実施するという現行の方針を維持する。

### ヒラノテクシード (6245 JP): 株価バリュエーション

時価総額 (百万円)	33,500	時価総額 (百万ドル)	209			
22 日平均売買代金 (百万円)	430	22 日平均売買代金 (百万ドル)	2.7			
株価パフォーマンス (%)	6245	TOPIX	業績予想 (百万円, %)	FY22	FY23	FY24
株価 (¥, 2026 年 6 月 8 日終値)	2,040	3,852.38	売上高	48,355	32,285	25,000
3mo (3 月 9 日終値比)	18.3	7.73	営業利益	1,681	1,599	1,500
6mo (2025 年 12 月 8 日終値比)	30.4	13.83	営業利益率 [OPM] (%)	3.5	5.0	6.0
YTD (2026 年 1 月 5 日終値比)	21.7	10.78	EBITDA	2,531	2,448	2,350*
1yr	39.9	38.31	EPS (¥)	59.9	86.79	72.69
5yrs	-23.6	97.15	財務レバレッジ (X)	1.6	1.4	1.4*
一株当たり指標	6245	TOPIX	ネット D/E レシオ (X)	-0.2	-0.2	-0.2*
EPS (¥, FY26 CE)	72.69	220.00	フリーキャッシュフロー	-871	3,864	1,500*
DPS (¥, FY26 CE)	84.00	N/A	株主還元概要	FY22	FY23	FY24
BPS (¥, FY26 EST*)	2591.43	N/A	配当金 (¥)	90.00	84.00	84.00
FCFPS (¥, FY26 EST*)	97.44	N/A	配当性向 (%)	150.2	96.8	115.6
予想 PER (x)	28.06	17.51	配当利回り (%)	N/A	N/A	4.1
予想 PBR (x)	0.79	1.30	DOE (%)	3.6	3.3	3.2*
予想 PCFR (x)	20.94	N/A	自己株比率 (%)	N/A	1.6	N/A
EV/EBITDA (x)	11.20	N/A	ROE (%)	2.4	3.4	2.8

Source: Nippon-IBR based on data on Bloomberg and Toyo Keizai / \* Nippon-IBR estimates

## FY25 決算概要

同社が発表した FY25 通期決算は、売上高 32,285 百万円（前期比 33.2%減）、営業利益 1,599 百万円（同 4.9%減）となり、営業利益率は前年同期の 3.5%から改善し 5.0%となった。売上高の減少はおもに塗工機関連機器セグメントにおいて、顧客の設備投資の様子見により装置の受注が減少し、それにより付帯工事の需要も減少に転じたことによる。また、EV 市場の減速が継続し、顧客がリチウムイオン二次電池関連への投資に慎重なため、EV 関連の機械装置の受注が減少し塗工機関連機器セグメントの売上を圧迫した。第 3 四半期には、複数の案件において総額 7,229 百万円のキャンセルが発生し、受注残高が減少した。

FY25 営業利益は、売上高の減少に伴い前期比で 4.9%減少したが、受注条件の見直しを進めたことにより営業利益率は前期比 1.5pt 増の 5.0%に改善した。同社は受注残の消化に努めているが、新規の受注数は限定的である。

塗工機関連機器セグメントでは以下の要因が奏功し、営業利益率は FY24 の 6.1%から FY25 の 10.1%に改善した。

1. 売上高減少に伴う販売手数料の減少による増益（前期比 1,097 百万円増）が売上高減少による減益（同 1,085 百万円減）を相殺した。
2. 塗工機関連機器の順調な生産に加え、仕向先変更および案件のキャンセルに伴う費用の転嫁について顧客交渉が順調に進捗した。
3. 国内案件の生産プロセスにおけるコスト削減が進展し生産性が向上した。

塗工機関連機器セグメントの営業利益率も FY24 の 6.3%から FY25 の 17.6%へと大幅に改善した。売上高の増加（前期比 17.9%増）が売上総利益の増加（同 606 百万円増）に貢献した。

同社の受注残の消化は以下のとおり順調に進展している。

FY24 第 3 四半期 49,141 百万円 / 同第 4 四半期 47,560 百万円

FY25 第 1 四半期 40,183 百万円 / 同第 2 四半期 36,800 百万円 / 同第 3 四半期 30,359 百万円 / 同第 4 四半期 31,650 百万円

上記の受注残のうち、EV 用リチウムイオン二次電池向け電極塗工装置を含むエネルギー関連の受注残は、以下のとおり減少している。

FY24 第 3 四半期 34,104 百万円（同四半期受注残全体の 69.4% / 同第 4 四半期 30,771 百万円（同 64.7%）

FY25 第 1 四半期 23,668 百万円（同 58.9%） / 同第 2 四半期 20,240 百万円（同 55.0%） / 同第 3 四半期 12,326 百万円（同 40.6%） / 同第 4 四半期 11,394 百万円（同 36.0%、前年同期比 63.0%減、前四半期比 7.6%減）

FY25 の全体受注高は 23,605 百万円（前期比 28.7%減）に留まり、第 4 四半期単独では、7,903 百万円（前年同期比 1.3%増・前四半期比 4.8%減）となった。

### ヒラノテックシード (6245 JP): 業績サマリー

(百万円)	FY24		FY25				
	上期	通期	上期	通期	YoY (%)	通期(予)	対予想比 (%)
売上	24,388	48,355	18,157	32,285	-33.2	31,000	4.1
GP	3,433	6,522	3,243	5,639	-13.5	N/A	N/A
GPM (%)	14.1	13.5	17.9	17.5	+4.0ppt	N/A	N/A
SG&A	2,409	4,840	2,033	4,040	-16.5	N/A	N/A
SG&A/Sales (%)	9.9	10.0	11.2	12.5	+2.5ppt	N/A	N/A
営業利益	1,024	1,681	1,209	1,599	-4.9	2,100	-23.9
OPM (%)	4.2	3.5	6.7	5.0	+1.5ppt	6.8	-1.8ppt
経常利益	1,201	1,894	1,275	1,706	-9.9	2,000	-14.7
RPM (%)	4.9	3.9	7.0	5.3	+1.4ppt	6.5	-1.2ppt
当期純利益*	867	905	901	1,313	45.0	1,600	-17.9
EPS (¥)	57.37	59.91	59.59	86.79	44.9	105.82	-18.0

Source: Nippon-IBR based on Hirano Tecseed's earnings results materials

\* 親会社株主に帰属する当期純利益

## セグメント別業績

同社には 3 つのセグメントがあり、うち塗工機関連機器と化工機関連機器の 2 つのセグメントが合計で連結売上高の 95.5%、および連結営業利益の大半を占める。FY25 連結売上高のうち、49.2% (前期比 58.0%減) を北米、27.4% (同 65.0%増) を日本、18.6% (同 47.4%増) を東アジア (中国、韓国、台湾を含む) が占めている。北米の売上は主にエネルギー関連製品であり、リチウムイオン電池製造過程で使用される塗工機関連機器の売上および付帯工事を含む。北米での前年割れの売上は、リチウムイオン二次電池関連の設備投資が急速に冷え込んでいることを示している。EV 用リチウムイオン二次電池への設備投資の縮小により、計 7,229 百万円の受注残がキャンセルされた。

### 塗工機関連機器

塗工機関連機器セグメントの FY25 売上高は 25,348 百万円 (前期比 39.7%減)、営業利益は 2,554 百万円 (同 0.5%増) となった。同セグメントの主力製品はリチウムイオン二次電池向け電極塗工装置である。米国の EV 用リチウムイオン二次電池関連の設備投資の縮小により、セグメントの海外売上は前期比 51.0%減の 19,912 百万円に減少した。一方、国内売上はディスプレイ関連の光学・偏光フィルム加工向け装置の底堅い需要により、前期比で 294.2%増の 5,436 百万円に急増した。営業利益率は前期比 4.0 pt 増の 10.1%に改善し、その要因は、1) 既存の受注の受注条件の見直し、2) 販売手数料などの販売管理費の減少 (営業利益を 1,097 百万円押し上げ、売上総利益の減益 1,085 百万円の一部を相殺)、である。

同社はこれまで受注残を消化し利益を実現して来たが、今後は将来の収益成長のため、受注を拡大することが優先事項となる。FY25 の同セグメントの受注は前期比で 50.6%減少し 13,150 百万円となったが、これは中期経営計画のセグメント売上目標 (FY27 までに 30,000 百万円) 達成に必要な月平均受注高 2,500 百万円を下回る。同社はセグメントの受注残消化に引き続き取り組んでおり、受注残は FY25 末時点で 20,907 百万円 (FY24 末比 48.2%減) まで縮小した。同社は機械の納入のみならず、全塗工工程への導入も行う付帯工事にサービスを拡大したが、付帯工事は受注案件の納入の縮小に伴い減少に転じている。

### 化工機関連機器

化工機関連機器セグメントの FY25 決算は、売上高 5,478 百万円 (前期比 17.9%増)、営業利益 962 百万円 (同 227.8%増) となった。前期比での増収は、主に MLCC (積層セラミックコンデンサー) や透明ポリイミドフィルムなどの電子材料用途向けの成膜装置の売上が伸長したことによる。営業利益は、1) 増収による売上総利益の改善 (同 606 百万円増)、2) 販売管理費の減少 (同 62 百万円増) により前期比で 668 百万円 (227.8%) 増となった。同社は MLCC および透明ポリイミドフィルムを成膜装置の対象市場として市場シェアの拡大を図っており、さらなる受注の獲得にコミットしている。リチウムイオン二次電池の設備投資が活況であった際、同社は生産資源のほとんどを塗工機関連機器セグメントに投入し、化工機関連機器セグメントへの配分は最小限に留めた。電子材料関連業界からの受注は産業資材やセラミックの需要により、FY25 第 1 四半期の 120 百万円 (Q1 全体の 3.6%)、同第 2 四半期の 685 百万円 (Q2 全体の 16.9%)、同第 3 四半期の 4,758 百万円 (Q3 全体の 57.3%)、同第 4 四半期の 1,778 百万円 (Q4 全体の 22.5%) となり、年間では 7,342 百万円 (前期比 20.8%増) となった。

## ヒラノテックシード (6245): セグメント別生産、受注及び販売の実績 (四半期)

(百万円)		FY24					FY25					
		Q1	Q2	Q3	Q4	FY	Q1	Q2	Q3	Q4	FY	YoY (%)
塗工機関連 機器	売上高	10,332	10,297	13,305	8,085	42,020	9,392	5,659	5,408	4,888	25,348	-39.7
	生産実績	9,049	8,806	11,400	7,326	36,581	7,691	4,747	4,373	4,182	20,995	-42.6
	受注高	5,555	10,570	4,721	5,749	26,596	2,754	2,674	3,964	3,757	13,150	-50.6
	受注残高	50,983	51,256	42,671	40,335	40,335	33,698	30,713	22,038	20,907	20,907	-48.2
化工機関連 機器	売上高	1,260	1,681	849	855	4,645	1,020	1,288	1,757	1,410	5,478	17.9
	生産実績	1,182	1,332	832	670	4,018	860	946	1,360	1,076	4,244	5.6
	受注高	1,299	420	1,721	1,686	5,127	309	1,079	4,063	3,743	9,196	79.4
	受注残高	6,088	4,828	5,700	6,531	6,531	5,820	5,611	7,917	10,250	10,250	56.9
その他・調整	売上高	506	310	429	442	1,688	307	489	349	312	1,458	-13.6
	生産実績	391	193	280	367	1,233	224	444	301	436	1,406	14.1
	受注高	355	365	295	366	1,382	279	300	277	401	1,258	-9.0
	受注残高	847	902	768	692	692	664	474	402	491	491	-29.0
連結合計	売上高	12,099	12,289	14,584	9,382	48,355	10,719	7,438	7,516	6,611	32,285	-33.2
	生産実績	10,622	10,331	12,513	8,364	41,833	8,776	6,137	6,035	5,696	26,646	-36.3
	受注高	7,210	11,356	6,738	7,801	33,106	3,343	4,054	8,305	7,902	23,605	-28.7
	受注残高	57,919	56,987	49,141	47,559	47,559	40,183	36,799	30,358	31,649	31,649	-33.5

Source: Nippon-IBR based on Hirano Tecseed's earnings results materials

## ヒラノテックシード (6245): セグメント別財務サマリー

(百万円)		FY23		FY24		FY25		
		上期	通期	上期	通期	上期	通期	YoY (%)
塗工機関連機器	売上高	18,227	37,374	20,629	42,020	15,051	25,348	-39.7
	営業利益	918	3,168	1,364	2,543	1,670	2,554	0.5
	OPM (%)	5.0	8.5	6.6	6.1	11.1	10.1	+4.0ppt
化工機関連機器	売上高	3,261	7,850	2,941	4,645	2,309	5,478	17.9
	営業利益	504	1,257	244	293	397	962	227.8
	OPM (%)	15.5	16.0	8.3	6.3	17.2	17.6	+11.3ppt
その他・調整	売上高	857	1,720	817	1,688	796	1,458	-13.6
	営業利益	47	269	149	271	5	-183	N/A
	OPM (%)	5.5	15.7	18.2	16.1	0.7	-12.6	-28.7ppt

Source: Nippon-IBR based on Hirano Tecseed's Earnings results materials

## ヒラノテックシード (6245): セグメント別財務サマリー (四半期)

(百万円)		FY24					FY25					
		Q1	Q2	Q3	Q4	FY	Q1	Q2	Q3	Q4	FY	YoY (%)
塗工機関連 機器	売上高	10,332	10,297	13,305	8,085	42,020	9,392	5,659	5,408	4,888	25,348	-39.7
	営業利益	584	780	1,090	87	2,543	1,112	557	683	201	2,554	0.5
	OPM (%)	5.7	7.6	8.2	1.1	6.1	11.9	9.9	12.6	4.1	10.1	+4.0ppt
化工機関連 機器	売上高	1,260	1,681	849	855	4,645	1,020	1,288	1,757	1,410	5,478	17.9
	営業利益	-10	254	-62	112	293	106	291	313	251	962	227.8
	OPM (%)	-0.8	15.1	-7.4	13.1	6.3	10.4	22.6	17.8	17.8	17.6	+11.3ppt
その他・調整	売上高	506	310	429	442	1,688	307	489	349	312	1,458	-13.6
	営業利益	67	81	101	21	271	27	-21	-4	-183	-183	N/A
	OPM (%)	13.3	26.3	23.6	4.9	16.1	8.9	-4.5	-1.3	-58.9	-12.6	-28.7ppt
連結合計	売上高	12,099	12,289	14,584	9,382	48,355	10,719	7,438	7,516	6,611	32,285	-33.2
	営業利益	292	732	805	-149	1,681	821	387	536	-146	1,599	-4.9
	OPM (%)	2.4	6.0	5.5	-1.6	3.5	7.7	5.2	7.1	-2.2	5.0	+1.5ppt

Source: Nippon-IBR based on Hirano Tecseed's Earnings results materials

\*1: Total OP = Total segment OP deducted by HQ costs.

ヒラノテックシード (6245): 用途別セグメント										
(百万円)	FY24					FY25				
	Q1	Q2	Q3	Q4	FY Total	Q1	Q2	Q3	Q4	FY Total
ディスプレイ関連	249	625	452	336	1,668	809	1,509	1,945	1,433	5,707
電子材料関連	996	986	982	838	3,803	1,101	1,172	1,672	1,533	5,479
生活用品関連	38	80	146	98	364	157	160	157	117	589
エネルギー関連	10,154	9,789	12,477	7,512	39,933	8,040	3,566	2,642	2,845	17,054
その他	659	807	520	597	2,585	610	1,032	1,097	671	3,414
合計	12,099	12,289	14,584	9,382	48,355	10,719	7,438	7,516	6,611	32,285

Source: Hirano Tecseed Co., Ltd.

## FY26 業績予想

同社は FY26 を同社製造部門出身の新 CEO、安居宗則氏の任命と共にスタートした。新経営陣の目標は、以下の 8 分野に及ぶ収益構造改革の実現にある。

- 事業ポートフォリオの最適化**：同社の強みであるロール to ロール技術を核とした高い塗工技術とその汎用性を活かし、事業ポートフォリオの最適化による安定的な成長を図る。
- ストックビジネスの強化**：同社は、熟練保全技術者の高齢化、ESG・環境対応からの設備の長寿命化ニーズの高まりにより、アフターサービス・メンテナンスの需要が拡大すると見ている。同事業を重要な収益基盤と位置づけ、計画的・効率的なサービス提供を推進する。
- 成長分野への投資**：ペロブスカイト型太陽電池向け製造技術を重点領域と位置づけ、金沢大学との共同研究で確立した独自技術を基に、量産プロセスにおけるデファクトスタンダードの確立を目指す。加えてスマートファクトリーやデジタルツインなど製造 DX 分野において、顧客にとってもコスト効率の高い先行的な取り組みを進める。
- 費用構造改革**：原材料価格の高騰といった外部環境の変化に対して、仕様変更の早期化、適切な価格転嫁、仕様確定段階でのコスト管理を徹底し利益確保を図る。
- 組織力強化**：設計・製造・生産技術を跨いだモノづくり改革実現のため、専門組織を組成。また、3D 図面、BOM（部品表）等の知的資産を活用し、AI 等導入による創造的集団への転換を図る。
- テスト設備の刷新**：テスト設備は新素材を開発する同社の顧客にとって重要な鍵となる。デジタルツイン技術を搭載することにより、顧客のテスト効率を向上させ、受注拡大を目指す。
- 生産設備の再構築**：奈良本社工場、木津川工場の生産設備に基盤投資を行い、生産効率の向上を目指す。
- 株主還元方針**：DOE3.5%または配当性向 60%のいずれか高い金額を目安にする方針は堅持する。成長投資に必要な資金を確保しつつ、資本効率と株主利益の向上にむけて機動的に自己株式の取得を実施する。

同社は FY26 の業績予想を、上期売上高 13,000 百万円（前年同期比 28.4%減）、同営業利益 800 百万円（同 33.8%減）、通期売上高 25,000 百万円（前期比 22.6%減）、同営業利益 1,500 百万円（同 6.2%減）としている。EV 市場の世界的な先行き不透明感は同社の当初の想定より長引く可能性があり、顧客の設備投資意欲の減退に繋がるため、同社は受注残の消化ペースは今後鈍化し塗工機関連機器セグメントの業績は弱含むと見ている。案件のキャンセルの影響は未確定であるが、EV 用リチウム電池関連の設備投資の縮小も予想されるため、今後 EV 以外の分野および中国などの米国以外の地域で新規受注を獲得することが同社にとって急務である。

FY26 業績予想は以下の想定に基づいている。

- 特に北米における EV 用リチウムイオン二次電池の需要減速を受け、塗工機関連機器セグメントの売上は低迷し、全社売上の減少に繋がる。
- 化工機関連機器セグメントの売上増は継続するが、塗工機関連機器セグメントの減収を相殺する水準には至らない。
- 徹底したコスト管理と運用効率の向上により費用構造の改革を実施し、FY26 営業利益率を前期比 1.0 pt 増の 6.0%に改善する。

同社は FY26 年間配当を一株当たり 84 円（前期比横ばい）と計画し、これにより配当性向は 115.6%（前期比 18.8 pt 増）となる。

ヒラノテックシード (6245 JP): 業績サマリー及びガイダンス						
(百万円)	FY25		FY26 (予)			
	上期	通期	上期(予)	YoY (%)	通期(予)	YoY (%)
売上	18,157	32,285	13,000	-28.4	25,000	-22.6
GP	3,243	5,639	N/A	N/A	N/A	N/A
GPM (%)	17.9	17.5	N/A	N/A	N/A	N/A
SG&A	2,033	4,040	N/A	N/A	N/A	N/A
SG&A/Sales (%)	11.2	12.5	N/A	N/A	N/A	N/A
営業利益	1,209	1,599	800	-33.8	1,500	-6.2
OPM (%)	6.7	5.0	6.2	-0.5ppt	6.0	+1.0ppt
経常利益	1,275	1,706	900	-29.4	1,600	-6.3
RPM (%)	7.0	5.3	6.9	-0.1ppt	6.4	+1.1ppt
当期純利益*	901	1,313	600	-33.4	1,100	-16.3
EPS (¥)	59.59	86.79	39.65	-33.5	72.69	-16.2

Source: Nippon-IBR based on Hirano Tecseed's Earnings results materials  
\* 親会社株主に帰属する当期純利益

## 中期経営計画 (FY24~FY27)の修正 – 再掲

2023 年 5 月の「長期ビジョン 2030」、および 2024 年 5 月の中期経営計画 (FY24-FY27) 発表時と比べ事業環境が大きく変化したことを踏まえ、同社は中期経営計画の成長戦略の見直しを行った。今後は、EV 需要に基づくリチウムイオン二次電池塗工装置を中心とした生産能力向上重視の戦略から、各先端分野の薄膜新素材の開発に重点をおいたあらゆるニーズに対応できる同社本来の強みを生かした戦略へと転換を図る。修正後の中期経営計画では、収益性を重視し、景気の波からの回復を目指しつつ、多様な収益源の確保と費用構造の改革を通して安定収益基盤の確立を図る。

同社は収益構造改革に取り組む FY26 までは、営業利益は 1,500 – 2,000 百万円の範囲に留まると想定している。FY27 には、売上高 30,000 百万円 (4 年 CAGR -10.6%)、営業利益 3,000 百万円 (4 年 CAGR -1.6%) を予想する。成長のペースは鈍化するものの、同社は営業利益率の FY23 の 6.9%から FY27 の 10.0%以上への改善を目指す。

FY27 を最終年度とする中期経営計画では、リチウムイオン二次電池向け電極塗工装置の売上低迷によりエネルギー関連の売上は低下する。詳細な数字は現在見直し中であり、上期決算後に開示する予定。

今後の課題は EV 用リチウムイオン二次電池以外の市場で新規受注を確保することである。中期経営計画のキャピタルアロケーションでは、研究開発や生産方式に重点を置いた成長戦略に 3,000 百万円を投資する。例えば同社は、顧客が資材を浪費することなく物理的にテストすることなしに、デジタル式で塗工機のテストを行える革新的な生産方式、デジタルツインを開発した。また、生産工程を最適化しリードタイムを縮小するためにすでに 3-D 化や BOM を採用している。同社は現中期経営計画の期間中にこれらの先行投資の回収を目指す。

ヒラノテックシード (6245 JP): 中期経営計画及び事業分野別収益			
(百万円)	FY23	FY27	4-year CAGR
エネルギー分野	35,100	N/A	N/A
電子材料分野	6,600	N/S	N/A
光化学機能性フィルム他	3,600	N/A	N/A
アフターサービス	1,600	N/A	N/A
他	0	N/A	N/A
売上高	46,946	30,000	-10.6
営業利益	3,236	3,000	--1.6
OPM (%)	6.9	10.0	N/A
ROE (%)	6.5	8.0	N/A

Source: Hirano Tecseed Medium-term FY24-27 presentation material

## 株主資本を最適化する資本政策

長引く EV 市場を取り巻く不透明感が顧客の設備投資意欲を減退させ、同社のキャッシュ流入を悪化させているものの、同社は現在の資本政策を据え置き、中期経営計画（FY24-FY27）期間中は現行の株主還元（DOE3.5%または配当性向 60%のいずれか高い金額を目安とする）を維持すると明言している。成長投資を優先すると共に、バランスシート、ひいては株主資本の最適化を図り、ROE を改善する（FY24 の 2.4%から FY28 以降の目標 8%以上）計画である。PBR1 倍を達成するために、利益を改善し、バランスシートを最適化することを目指す。

## GENERAL DISCLAIMER AND COPYRIGHT

This report has been commissioned by Hirano Tecseed Co., Ltd. (the Sponsor) and prepared and issued by Nippon Investment Bespoke Research UK Ltd (Nippon-IBR), in consideration of a fee payable by the Sponsor. Fees are paid on delivery of the report in cash without recourse. Nippon-IBR may seek additional fees for the provision of follow-up research reports and associated IR services for the client but does not get remunerated for any investment banking services. We never take payment in stock, options, or warrants for any of our services.

**Accuracy of content:** All information used in the publication of this report has been compiled from publicly available sources that are believed to be reliable, however Nippon-IBR does not guarantee the accuracy or completeness of this report and has not sought for this information to be independently verified. Opinions contained in this report represent those of the Nippon-IBR analyst at the time of publication. Forward-looking information or statements in this report contain information that is based on assumptions, forecasts of future results, estimates of amounts not yet determinable, and therefore involve known and unknown risks, uncertainties and other factors which may cause the actual results, performance, or achievements of their subject matter to be materially different from current expectations.

**Exclusion of Liability:** To the fullest extent allowed by law, Nippon-IBR shall not be liable for any direct, indirect, or consequential losses, loss of profits, damages, costs, or expenses incurred or suffered by you arising out or in connection with the access to, use of or reliance on any information contained on this note.

**No personalised advice:** The information that we provide should not be construed in any manner whatsoever as, personalised advice. Also, the information provided by us should not be construed by any subscriber or prospective subscriber as Nippon-IBR's solicitation to effect, or attempt to effect, any transaction in a security. The securities described in the report may not be eligible for sale in all jurisdictions or to certain categories of investors.

**Investment in securities mentioned:** Nippon-IBR has a restrictive policy relating to personal dealing and conflicts of interest. It does not conduct any investment business and, accordingly, does not itself hold any positions in the securities mentioned in this report. However, the respective directors, officers, employees, and contractors of Nippon-IBR may have a position in any or related securities mentioned in this report, subject to its policies on personal dealing and conflicts of interest.

**Copyright:** Copyright 2026 Nippon Investment Bespoke Research UK Ltd.

For further enquiry, please contact:

Nippon Investment Bespoke Research UK Ltd

118 Pall Mall

London SW1Y 5EA

TEL: +44 (0)20 7993 2583

Email : [enquiries@nippon-ibr.com](mailto:enquiries@nippon-ibr.com)



Research Beyond Horizons  
Japanese Equity Specialist

*Nippon Investment Bespoke Research UK Ltd (formerly known as NIB Research UK Ltd.) is registered in England and Wales (9100028) and is authorised and regulated by the Financial Conduct Authority <FRN: 928332>.*